

AAAL 環境委員会 工場視察実施

AAAL 環境委員会
和合 幸弘
((株) オートボックスセブン)

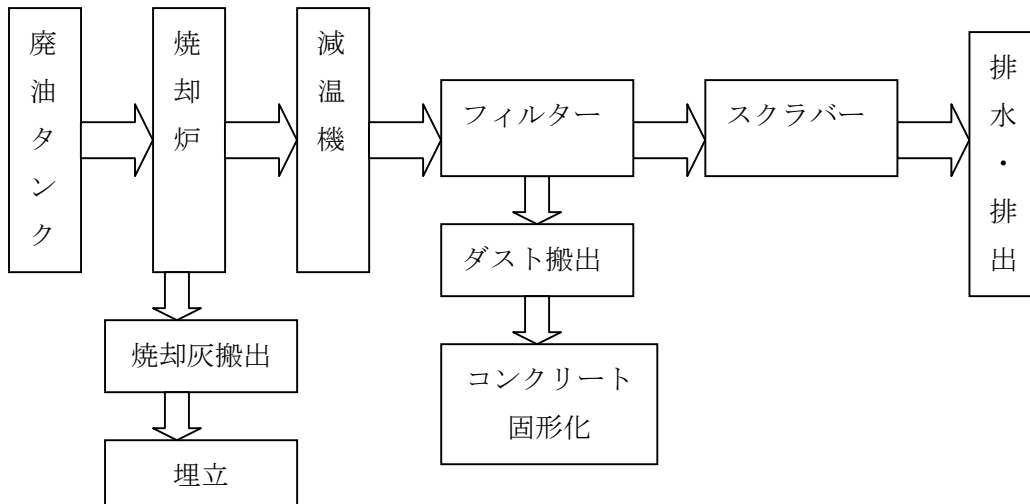
<開催概要>

- 視察日及び視察先：
 - 2009年9月10日 環境開発株式会社新保処理工場（石川県金沢市）
 - 2009年9月11日 富山エコタウン（愛知県豊田市）
（日本オートリサイクル株式会社、株式会社プリテック）
花崎工業株式会社
- 参加者：AAAL 環境委員会に参加する企業・団体メンバー15名
- 目的：
 - ①最終処分場を確認することにより、店舗から排出された廃棄物が中間処理を経たどのように処理されているのかを理解し、産廃に関する知識・経験レベルのアップを図る。（最終処分場の視察は今回初）
 - ②委託先とのコミュニケーション、情報交換。
 - ③工場視察を実施する際の着眼点確認

1. 視察実施各社詳細

●環境開発株式会社

1) 処理工程



【処理能力】

第5 焼却炉（汚泥、廃油、廃液、感染性産廃）：900 kg／時

第8 焼却炉（廃プラ、動植物性残さ、廃油）：4,000 kg／時

2) 許可状況

一般廃棄物収集運搬業・処分業許可：金沢市

産廃収集運搬業許可：北陸地域全域、福島県、滋賀県、新潟県、岐阜県、横浜市他

特管・産廃処分業許可：石川県

許可品目：汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラ、ゴムくず、金属くず他

3) その他

- 処理過程でリサイクルできる廃プラスチック類・紙くず・繊維くずはリサイクル工場に搬出してペレット状に加工し、プラスチック原料や燃料として出荷される。
- 当工場では、積極的に排出事業者や地元小中学生の見学を受け入れている。
- 現在最新式の焼却炉（第9 焼却炉）を建設中。
- 平成 15 年 7 月 ISO14001 取得。
- 温暖化対策の一環として、工場施設の屋上緑化を行い、社員が分担して世話をしている。

会社概要

設立	1972年7月
資本金	50,000千円
事業所	本社、新保処理場、リサイクル工場、白山事業所
従業員	100名

廃油タンク



投入コンベア

当工場では、搬入された一斗缶やドラム缶をそのまま投入する



第8焼却炉
廃プラ、廃油、廃液、残さ等を処理している



焼却施設からの排煙
施設からの排煙は、フィルターやスクラバーで中和・無害化処理をされている水蒸気のみ



感染性廃棄物保管容器



埋立処分場
埋立面積 16,000 m²あり、平成2年完成し、平成37年まで使用予定



リサイクル施設で生成されたペレット



屋上緑化のための雨水利用システム



●富山エコタウン

1) 概要

- 2002年5月全国16番目、北陸で初めて承認。敷地面積約18ha
- エコタウン交流推進センターを中心に廃プラ、木質系廃棄物、生ゴミ・剪定枝、自動車、廃合成ゴム、廃食油等6つのリサイクル施設を有し、廃熱リサイクル施設が来年度より稼働予定。
- 今回は、廃プラリサイクル施設(株)プリテック、自動車リサイクル施設日本オートリサイクル株式会社を視察。

2) 視察会社内容

2-1) 日本オートリサイクル株式会社

<処理工程>

1日の処理台数約80台(最大140台まで処理可能)

【廃車】



【エンジン】



取り外した部品や液類は極力再利用され、不可能なものは資源化、サーマルリサイクルされており、「ゼロ・エミッション」を推進。

※工場撮影禁止のため、画像なし

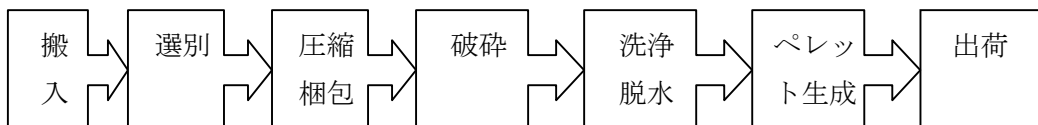
<施設概要>

敷地面積	29,990 m ²
建築面積	7,615 m ²
従業員	47名

2-2) 株式会社プリテック

<処理工程>

受入能力：再生処理棟19,400t/年、中間処理棟9,600t/年



本工場では、上記再生プラスチック原料の生成の他、熱分解して再生燃料も精製しており、全国初の複合型リサイクル施設として稼働している。

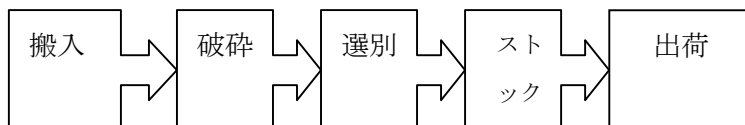
※視察時には工場での作業が稼働していなかったため、画像なし

<施設概要>

敷地面積	約15,000㎡
建築面積	約6,000㎡
従業員	非公表

●花崎工業株式会社

1) 処理工程 (廃タイヤ)



- ・チップ化された廃タイヤは、主に明星セメントに出荷。
- ・自動車関連では、廃バッテリー（神岡鉱業に出荷）、金属くず、廃プラ、バンパーの引取りを行っており、その他木くず、廃OA機器等リサイクル可能なプラスチック類や金属類の原料製造・販売を手広く行っている。

<p>神岡鉱業に出荷されるバッテリー</p> 	<p>汚泥に含まれる銅を取り出している</p> 
<p>酒類ビンのケースを破碎機にかけてチップ状に破碎し、再生プラスチック原料にしている</p> 	<p>破碎されてチップ状にしたタイヤを明星セメントに出荷し、サーマルリサイクルされている。</p> 

自治体からの要請により一時的に廃土の受入を行っている。



工場看板



2) 許可状況

産廃・特管産廃収集運搬業許可：北陸・東海地域全域、新潟県、広島県、山口県他
 許可品目：汚泥、廃油、廃プラ、木くず、金属くず、がれき類、廃酸、廃アルカリ他

3) その他

- 現状パイの取り合いの状態になっており、まずは取引先及びリサイクル素材の確保が至上課題となっている。
- 以前は土木・建築工事も請け負っていたが、昨今の公共事業削減により、事業を縮小。現在は解体工事の際のダイオキシン・アスベスト除去を中心に請け負っている。
- 2004年12月 ISO140001 取得。

4) 会社概要

設立	1977年1月
資本金	30,000千円
事業所	本社、事業所、東海事業所
従業員	23名

3. 総評・所感等

<総評>

今回視察した4箇所とも稼働状況及び環境面とも問題となる点は見受けられず、委託業者（または委託業者となったとしても）として問題なしと判断する。また周辺地域への影響も及ぼさない環境と思われる。一方現地スタッフとコミュニケーション機会があった環境開発と花崎工業について両社ともビジネスベースからするとまだまだ受入量が不足気味であることについての言及があった。

<所感>

今回初めての最終処分場の視察であったが、イメージで持っていた臭い等のマイナスイメージとは全く違い、完全な無害化された環境が徹底されていた。また、何れの工場もリサイクル技術が非常に高く、自動車関連部品のリサイクル率もほぼ100%に近い。とはいえ、一般的には自動車関連産業のイメージは環境に対してマイナスイメージが根強く残っており、当業界としてもこういった高いリサイクル技術や成果をもっと外部に対して打ち出していく必要があると感じた。

以上